

中東工科大学（トルコ）

1月中旬で秋学期が終わるということで、1月はレポート、プロジェクト、期末テストの盛りだくさんで1月中旬までは目の回るように日々が過ぎていきました。最も印象に残ったのは、drama analysis のプロジェクトです。The Top Girlの台本を登場人物を変えて書き直して自分たちでビデオをとって提出するというものでした。先生からは、舞台を現代トルコということにして、The Top Girlが書かれた時代と対比させるという提案のアイデアが出されていました。そのアイデアを少し使って、友達と一緒に、舞台を今の中東工科大学ということにして台本を作りました。宗教熱心なムスリムと中東工科大学によくいる世俗的なムスリムの対比をテーマにして台本を書き直し、秋学期に感じた、イスラムのイメージとトルコのギャップ、トルコ人が宗教に対してどういう見方をもっているのかなどをリキャップすることができて、面白かったです。

リヨン第三大学（フランス）

今年は初めて海外で過ごす年越しで、特別な1年のスタートになったと思います。モネの絵のカレンダーを買ったり、1月の伝統菓子のガレット・デ・ロワを食べたり、フランスのお正月を満喫しました。

最近は家だとダラダラしてしまうので、図書館など場所を変えたり、友達と一緒に勉強するようにしています。授業に関しては、最初の頃に比べてフランス語を聞き取れるようになってきており、授業を聞くのが楽しく感じられるようになってきているものの、自分から発言したり文章を書くのはまだ苦手なので、その点を改善できるように頑張りたいと思います。また、前学期は中だるみがあり、テストでも苦戦した部分があったので、今学期は計画的に勉強したいと思います。

フライブルク大学（ドイツ）

学習状況について

徐々に課題のペースや授業のペースに慣れてきたが、未だに授業においていかれることが多々ある。また、トピックについて内容をキャッチアップ出来ていても、なかなか唐突な質問にたいして自分の考えをアウトプットすることができない。しかし成長した点もある。授業が始まったばかりの頃は自分の英語に自信がなく、発言をためらうことも多かったが、最近は発言をしたり、生活面でも自己主張をすることに対するためらいがなくなった。自分で話そうとすることが多くなった分、自分が言いたいことがうまく伝わらなかったり、相手が言っていることに対して的外れな回答をしてしまう場面も増えているが、そのたびに、自分がなぜそのミスをしたのか自問自答し、周りの助けを借りながらなんとか日々生活している。

生活面について

徐々に安定して会うような友達もでき、自分の生活リズムに合わせてスケジュールを調整できるようになってきた。また、自分の体力の限界も分かってきたため、課題とイベント、自分のやらなくてはならないこととの兼ね合いを考えながらスケジュール管理をする努力をしている。留学開始以前は、英語力の強化、自分のアイデアの幅を広げることなどが留学目標であったが、最近では自己管理能力、時間の使い方の重要性を日々痛感している。また、わからないことを自分だけで解決しようとため込み、後回しにしてしまう癖があるが、周りの人に聞くなど、人に頼るものでも大切だと感じている。

オレブロ大学（スウェーデン）

秋セメスターでほとんどの友人が帰国してしまってまた一から友人関係を作り上げるプレッシャーを感じていました。何か新しいことに挑戦したいと思い、思い切って寮を変えて今まで一人部屋だったのが6人の共同生活が始まりました。寝室は個人のものがあり、その他のキッチンやバスルームを共有している形です。以前の寮と比較して格段に英語を話す機会が増えました。今回は2セメスター目ということもあり留学生としてオリエンテーションには参加しないので、そんな私にとってはいつも通り暮らしているだけでルームメイトと英語で会話できて仲も深めることができる今の状況がとてありがたいです。人数は多くありませんが、何人か私と同じ時期にスウェーデンに来て2セメスター滞在している友人とも一緒にご飯を作ったり外食したり、ジムに行ったりして関係が続いていることがとてもうれしいです。海外／スウェーデンの文化にもかなり慣れてきて、特に英語でのリアクションや決まり文句などがかなり自然と思いついて言えるようになりました。純粋な語彙力などではなくこういった点における自分の成長は、留学に来て実際に生活したから得られたものだと感じます。

スウェーデンに来た当初は教授の話している内容の大まかな内容がわかる程度の理解度だったのですが、最近是一言一句聞き取れるようになってきて、逆に聞き取れなかった単語を拾って聞き返したり自分で調べたりできるまでになりました。授業に関しても、今までは何とか英語を理解して授業についていくことに精いっぱいでしたが、最近では講義の内容について理解を深めようと積極的に調べ、ただ文献を読むのではなく『理解する』『自分の意見を持つ』ことを意識して授業に取り組んでいます。中でも私が一番注意深く耳を傾けるのは生徒の教授に対する質問や感想です。同じ授業を受けていてもここまで理解の深さが違うのかと毎回驚かされます。中には教授も答えに詰まるようないい質問を毎授業投げかけてくれる生徒もいて、そんな生徒と一緒に授業を受けられる環境を無駄にしないよう毎回集中して受けています。前期よりも慣れてきた分、ここで手を抜くのではなく、いろんなことを吸収して帰国したいと思います。

チェンマイ大学（タイ）

Chiang Maiの都市について学ぶ授業ではフィールドトリップで、アメリカの総領事館に行き、アメリカの領事の方からお話を聞くことができていい機会になった。経営学の授業では、文化の違いを理解して組織マネジメントをする必要があるということを学び、そのクラスの中でいろんな国の文化について話し合うことができて、自分の知らない文化が世界中にはたくさんあるのだとわかった。

年始にあったミッドタームテストのリーディングウィークや週末を使って、チェンマイにいうちに行きたい場所に沢山行くことができた。一つ目は、カウントダウンイベントでラプンツェルのモデルになったランタン上げを見に行くことができた。11月のイーペン祭り（コムローイ祭り）の時に行くことはできなかったが、最高の景色を見ることができてよかった。2つ目は、タイで1番高い山に登った。たまたまアメリカやカナダ、チュニジア、スウェーデンなどから来た人たちと同じグループで登ることができ、色んな国の人との交流の機会にもなって充実した山登りだった。3つ目はエレファントキャンプに行き、象のお世話や象と一緒に水浴びをした。タイは象で有名だが、近年ゾウ保護の観点で国の規制が厳しくなり、ほとんどの場所でゾウに乗ることはできなくなっているが、この取り組みに対してすごくポジティブな印象を持つことができた。

また、生活環境の面に関しては。大気汚染が徐々に始まってきており、マスクなどでしっかり対策しないといけないと感じている。また、気温も一番涼しかった12月からは徐々に上がってきており、暑さの面でも不安が少しずつ出てきた。